

# 鉄労以下に転落した 動労「本部」スト破り集団！



「本部」反動集団の暴力襲撃をうち破り、4・16ストを貫徹した津田沼支部。

# 日刊 動労千葉

80.4.19  
NO.407

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
鉄電二三五八九(公衆電話)三二七二〇七

## 「本部」津田沼班解体。一掃。

全組合員のみなさん。 四・一三国鉄運賃値上げ反対闘争を起点に、四・一五物価値上げ反対闘争、四・一六決戦スト、八〇春闘再構築へむけた四・一七政府の不当介入抗議・京成闘争支援24日減産闘争と連続した闘いに終始一糸乱れぬ団結をもって闘われたことに本部闘争委員会は心からの敬意を表します。 とりわけ、千葉・蘇我・津田沼・鹿島地区拠点で敢然としてストライキに突入した組合員のみなさん。そして、津田沼拠点決起集会に結集し、「本部」革マル反動分子二百名のヘルメット部隊の投石と竹竿でつきかかる、春闘破壊策動と対峙し闘い抜いた五百五十名の組合員の皆さんに敬意を表します。 わが動労千葉は、本日十三時より第六回支部代表者会議を開催し「八〇春闘の経過及び当面する取組み」を提起し論議のうえに決定する予定です。全組合員のみなさん。 この支部代方針を徹底討論し、今や完全に鉄労以下に転落し、なりふりかまわず、権力・国鉄当局に哀訴し、その庇護のもとに動労千葉破壊を企図する「本部」革マルスト破り集団の策動を粉碎し、動労大改革、八〇年代労働運動の戦闘的再生をめざして奮闘しようではありませんか。

「俺は、班を結成したのは知らない」

四月十四日、動労「本部」は急きよ組合規約もない「本部」直轄の津田沼班なるものを短期転勤者を中心とする十八名で結成したといっています。

十八名を結集しなせに「支部」結成ができなかったのか！

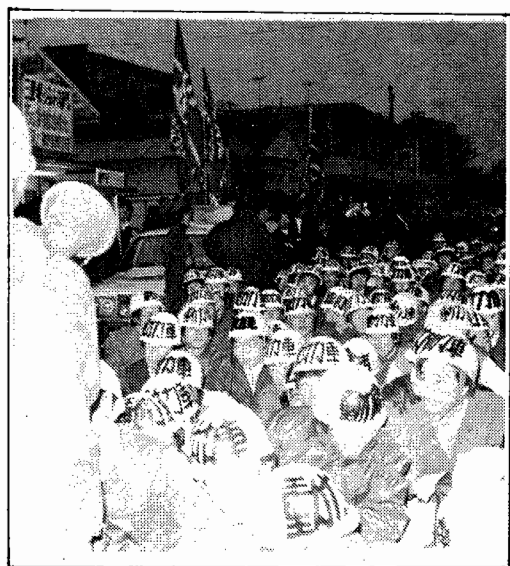
ここに「本部」革マル反動分子の「班結成」なるもののベテン性がはっきりと示されています。

十八名中革マルスバイ分子嶋田誠、斉藤(吉)を除くほとんどの短期転勤者が、動労千葉組合員の問いかげに口を揃えて「俺は班を結成したことには知らない。代表者も誰なのか知らない」と答え当惑している有様なのです。しかも、四・一五にヘル部隊二百名がくることが事前にまったく知らされてなかったと、口々に言っているのです。このことをみるだけでも、班結成なるものが、春闘破壊、津田沼拠点つぶしの為のみ急きよデッチ上げられたものであることが鮮明です。

当局へのなきつきータレコミ集団と化した動労「本部」暴力・スト破り集団

いま、津田沼支部組合員を先頭に動労千葉組合員は、スト破壊のためにのみ班を結成し、四・一六スト破壊襲撃の手先になりさがった裏切り分子に対し、当然のごとく怒りの糾弾行動を展開しています。

これに対し「本部」革マル反動分子は、昨年四・一七津田沼襲撃をうけても屈せず組織的前進をかちとる動労千葉になす術もなく、四・一



(4月15日、津田沼電車区)

五暴力襲撃が粉碎されてしまった今、鉄労以下の当局への泣きつき、タレコミ、弾圧処分要請のみを行うスト破り集団になり下がっています。

津田沼では、嶋田誠、斉藤(吉)をはじめ、全員に当局職制をはりつけて出勤をさせるとか、裏切り分子糾弾のビラに個人名が書いてあるからと当局にタレコミ、当局にビラハガシを「懇請」するとか、ありもしない「暴力事件」をデッチ上げて当局に泣きつき、あげくのはては検修職場に嶋田等の「保護」と称して局課員を連日二〇余名も配置させるといふ、およそ鉄労もびっくりの反労働者の行為は枚挙のいとまがないほどです。

このような、「本部」革マル反動分子のものはや労働組合とはいいがたいほどの当局と密着した姿を眼前にして、動労千葉と国労の労働者が増々、怒りをもやしているのは当然です。

全組合員のみなさん。 今日「本部」革マル反動分子の姿こそ「あつてはならない労働者」労働組合の典型です。 われわれは、かかる「本部」暴力・スト破り分子にひきまわされた「津田沼班」の諸君を一日も早く真の闘う労働者として自覚させるために、「津田沼特別班」解体闘争を更に押し進めよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！